

地域社会との共生

TOYO TIREのSDGs (2030年のあるべき姿)

- 多様なリソースを活用して、地域の教育・文化レベルを向上させ、世界全体の安定的発展に貢献する。

〈関連する国連SDGs〉



優先的に取り組むべき課題

- 地域社会とのエンゲージメント
- 生物多様性の保全

優先的に取り組むべきと考える理由 (機会とリスク)

TOYO TIREは、将来にわたって社会から必要とされる企業となるには、企業活動に関わる全ての人びと(ステークホルダー)と喜びを分かち合うことができる企業を目指すことが重要と考えています。また、持続的に発展していく上でも、環境問題の克服、人材の確保、地域経済の安定的発展は不可欠と考えています。そのためにはステークホルダーとの対話の機会を重視し、協働による地域課題・社会課題の解決と豊かな社会づくりに寄与することを取り組むべき課題と位置づけています。

2018年度の重要な取り組み

- ステークホルダーとのコミュニケーションの深化

マネジメント手法

方針

TOYO TIREが持つリソースの活用とさまざまなコミュニケーションを通じたステークホルダーとの協働により、事業活動が影響を及ぼす範囲における環境保全や次世代育成支援、地域社会の発展に貢献することで、地域社会との共通価値を創造していきます。

また、事業規模の拡大に伴い、特に環境インパクトが大きいと予想される製造拠点では、その周辺地域の生物多様性への影響の増大リスクに対して、予防原則アプローチで取り組んでいきます。

目標

ステークホルダーとの協働によって社会的課題を解決し、共通価値の創造を目指します。

責任 (2019年4月現在)

コーポレート統括部門管掌執行役員

地域社会とのエンゲージメント

TOYO TIREは、事業活動が地域の経済・環境・社会に対して直接的な影響を及ぼすものと理解し、社会からの評価および期待を真摯に受け止めるとともに、全ての事業所において、積極的な情報発信や対話機会の創出など、地域社会とのコミュニケーションを重視しています。そしてコミュニケーションを通じて得られたステークホルダーのニーズを正しく理解し、経営に反映するよう努めています。

例えば、従業員約1,800名が勤務する当社桑名工場では、高い意識を持って業務に取り組む従業員の仕事への姿勢と、真剣なものづくりの現場を、一番身近なステークホルダーである家族に伝えるため、従業員家族向けの工場見学会を開催しました。見学会には約260名の従業員の家族が参加し、見学を通じて、家族に会社の魅力を知ってもらおうと同時に、職場への安心感、信頼感を深めてもらいました。



従業員家族向け工場見学会
(当社桑名工場)

環境保全への取り組み

TOYO TIREは、事業活動が特に製造拠点の周辺地域の環境に対して、最も大きな直接的な影響を及ぼすものと理解しています。そのため、製造拠点では周辺地域のステークホルダーとの対話と情報発信によって、事業活動に対する理解と信頼を築くとともに、環境保全のための活動に取り組んでいます。そして生物多様性は地域の暮らしに直接的な利益をもたらす、持続可能な発展にもつながるものとして、地域の生物多様性保全を推進しています。

例えば、当社桑名工場では、NPO法人「森林(もり)の風」の協力を得ながら、近隣の放置雑木林を健全な森林に整備する「TOYO TIRES 緑のつながり・三重」に取り組んでいます。2018年度は従業員とその家族計116名(うち子ども36名)のほか近隣の地域住民の方々にも初めて参加していただき、実施しました。

このほか、当社グループでは環境問題に取り組む国内外の環境保全活動に携わる団体、および活動に対して資金援助を行うことを目的として、「TOYO TIREグループ環境保護基金」を設置しています。従業員の参加率は8割を超え、グループの環境保全活動として定着しています。「TOYO TIREグループ環境保護基金」による活動の詳細についてはWebサイトをご確認ください。



「TOYO TIRES緑のつながり・三重」の森林保全活動の様子(当社桑名工場)

地域社会の発展に向けた支援

TOYO TIREは地域社会を構成する一員の責任として、地域経済の活性化や被災した地域の復興に向けた支援を行っています。

例えば米国のTTHAグループではクリスマスに入院中の子どもたちに従業員が集めたおもちゃを届ける「ホリデー・トイドライブ(Holiday Toy Drive)」活動に取り組みました。集まったおもちゃは近隣のこども病院に届けられ、治療中の子どもたちに退院のお祝いとして手渡されました。

【2018年度当社グループが行った被災地支援】

- 千年希望の丘整備復興寄付金(宮城県岩沼市)
※TOYO TIREグループ環境保護基金による
- 平成30年7月豪雨災害義援金(日本赤十字社)
- 2018年秋のカリフォルニア州の山火事に対する義援金(アメリカ赤十字社)

次世代育成支援

TOYO TIREは地域社会が持続的に発展していく上で、次世代を担う子どもたちの健全な育成が社会課題の一つであると考え、次世代育成支援のための寄付を行っています。

例えば、TOYO TYRE MALAYSIA SDN BHD(マレーシア)は、勉学意欲が高くても、経済的理由により十分な学習環境に恵まれていない生徒を対象とした「奨学金プログラム」を2013年度から実施しています。プログラムは大学生を対象とした「学部生奨学金プログラム(Undergraduate Scholarship Program)」と、小学生を対象とした「児童教育支援プログラム(Student Education Assistance Program)」があり、マレーシアの次世代を担う人材の育成を支援することで、彼ら家族の将来の生活水準の向上と地域の発展に貢献しています。2018年度は本事業に対し約52,800USドルを支出し、バス代や本代、授業料などとして活用されています。



奨学金プログラムを受ける児童の皆さん(TOYO TYRE MALAYSIA SDN BHD)

TOPICS

昌和不動産株式会社: TOYO TIRE本社でハートフルリーダー会開催

昌和不動産株式会社はTOYO TIRE株式会社の特例子会社として、障がい者の雇用の推進および職域の拡充に努めており、多くの障がい者の方が各事業所で活躍しています。また、地域社会の一員として、実習生の受け入れを定期的に行い、実習生の進路(職業)選択時の就業体験を通じて、企業就労の一助を担っています。

2018年に「ハートフルリーダー会*」を初めてTOYO TIRE株式会社本社を会場に開催しました。当日は異業種他社の特例子会社のリーダーと、障がい者の雇用拡大および雇用推進に向けて活発な意見交換を行い、同社スタッフによるタイヤの手彫り作業の実演を見学していただきました。



タイヤの手彫り作業の実演(昌和不動産)

*公益社団法人全国重度障害者雇用事業所協会主催の、兵庫県・大阪府の特例子会社を中心に現場で働くリーダーを対象とした勉強会